

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月11日  
枚方市立津田南小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

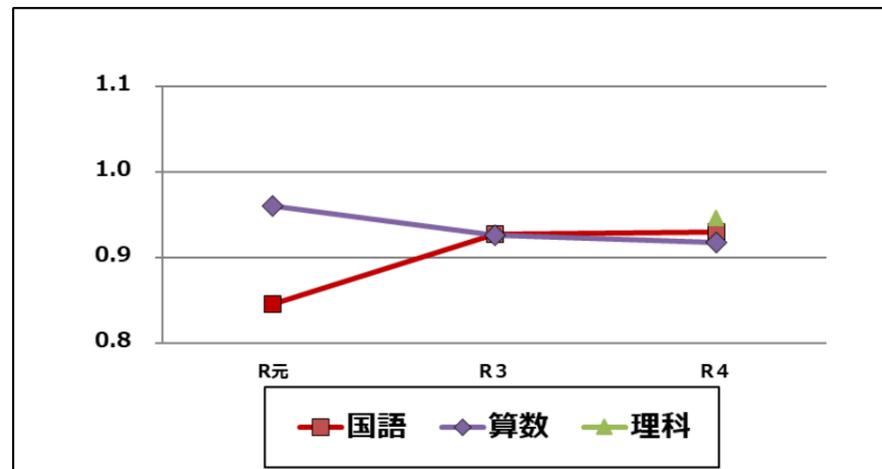
## 【全体概要】

### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

### (全国の平均正答率を1とした経年比較)



対全国比 (全国を1とする)	
国語	0.93
算数	0.92
理科	0.95

※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

### <学力調査結果の概要>

#### ○国語について

→対全国比の1と比べると本校は、0.93という結果になった。令和元年度の国語0.85という結果を考えると上昇したことになる。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける問題での正答率が低く、無回答率も高い結果が出た。今後、書く力の向上を目指して行く必要がある。

#### ○算数について

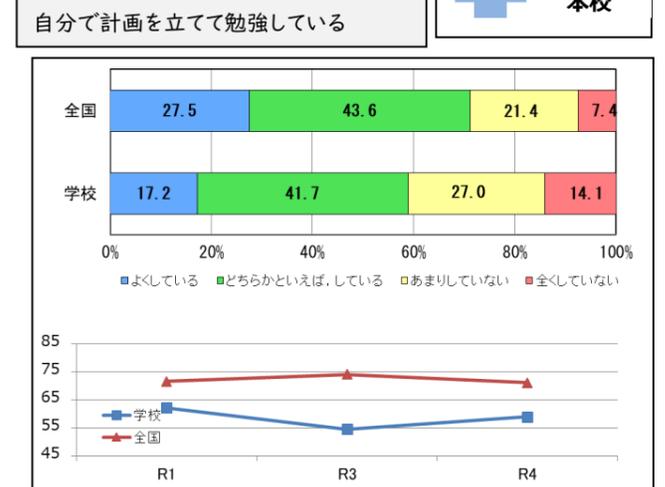
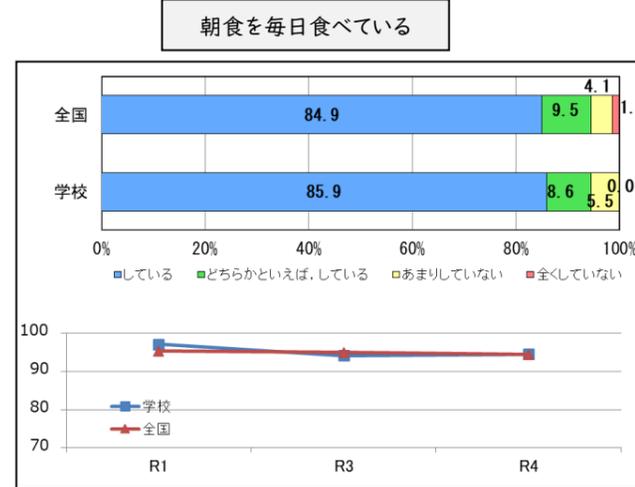
→対全国比の1と比べると本校は、0.92という結果になった。令和元年度の算数0.96という結果を考えるとやや低下したことになる。示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題での正答率が低い。また、問題形式でいうと記述式の問題の正答率が低いことから、国語同様に問題を解くだけでなく、過程を大切に、考えを書く授業づくりを進めていく必要がある。

## 質問紙調査の結果

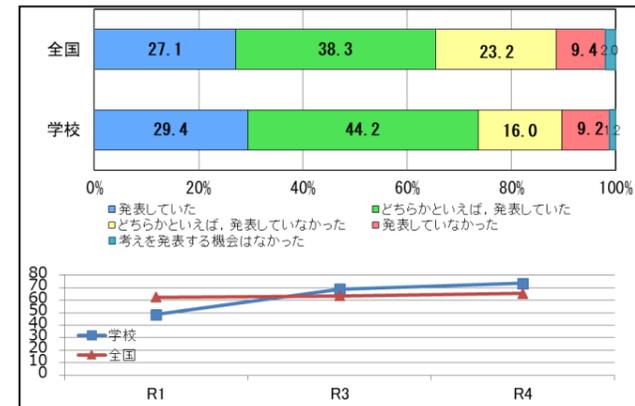
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

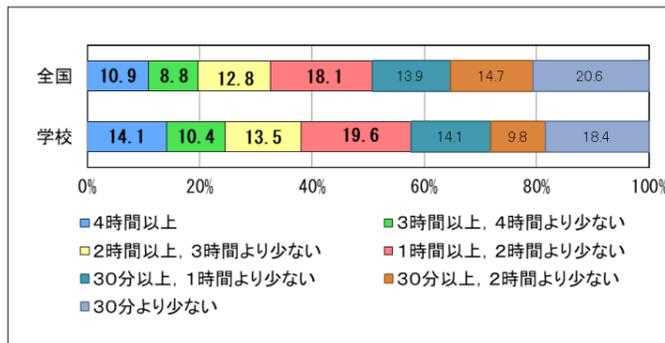
▲ 全国  
■ 本校



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか



普段1日あたり、どれくらいの時間、携帯電話やスマホでSNSや動画を視聴しているか。



### <質問紙調査結果の概要>

- 生活習慣について→毎朝朝食を食べているという項目について、毎年安定して9割を超える児童が肯定的な回答をしている。朝食はその日の調子を整える大事な役割を果たしているため、今後も続けてほしい。
- 学習について→授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫をして発表をしているということが分かる。ただ、校内研究を進めている国語の授業では、内容がよく分かる児童の肯定的な回答の割合が下回っている。考える力の向上を目指し、子どもたちが読みたい、書きたい、やってみたいと思う授業づくりを進めていきたい。

### まとめ

- 学力学習調査から、国語は思考・判断・表現に関する力に課題があると分かった。条件がいくつかある中で書く力、考える力の向上を目指していきたいと思う。算数でも自分の考えを書くことに課題があると考える。引き続き、校内研究で取り組んでいる言語活動の充実を図っていきたい。
- 質問紙調査の結果では、朝食を食べ、生活習慣に関して規則正しく送ろうと意識していることが分かった。自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国より低いことやスマホでSNSや動画の視聴時間の割合が全国より高い。津田中校区と連携して行っている『ジャンピングウィーク』を通して、家庭と学校とが協力して行っていく必要がある。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

### <国語>

#### 成果や課題があった設問

##### 【成果】

人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。

② 森田さんは、物語から伝わってくるイメージを具体的に想像することができている。森田さんは、物語から伝わってくるイメージを具体的に想像することができている。森田さんは、物語から伝わってくるイメージを具体的に想像することができている。

	正答率	無解答率
本校	72.5	11.9
全国	68.3	12.2

**(考察)**  
 全国・大阪府より高い正答率である。正答の条件が2つある。1つ目は、この物語から伝わってくることを考えて書くこと。2つ目は、10字以上30字以内にまとめて書くことである。正答率が高いことから、おおよその児童がこの物語から伝わってくることを考えて書くことができている。しかし、人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題がある。今後は物語の授業の中で、話し合い活動を通し、考えを共有し身につけさせたい。

##### 【課題】

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。

② 森田さんは、川口さんと伝え合ったことでも、自分の文章のよさをより盛り、書くことになりました。森田さんは、川口さんと伝え合ったことでも、自分の文章のよさをより盛り、書くことになりました。

	正答率	無解答率
本校	30.0	19.4
全国	37.7	14.5

**(考察)**  
 ここでは、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」や「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」など、【文章2】のよさについて書き、【文章2】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書くことが求められる。全国・大阪府よりも正答率が下回り、無回答率も高い。正答率が低かった理由としては、書く条件が増えたこと、文字数が増えたこと、【文章2】を読み返さなければならないことがあげられる。

### <算数>

#### 成果や課題があった設問

##### 【成果】

百分率で表された割合を分数で表すことができるかどうかをみる。

② 果汁入りの飲み物について考えます。  
 (1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。

飲み物の量: 100%  
 果汁の量: 25%

	正答率	無解答率
本校	70.6	1.9
全国	71.1	3.9

**(考察)**  
 全国に近い正答率であり、大阪府より高い正答率である。果汁が25%含まれている飲み物の量を基にした時の、果汁の量の割合を分数で表す問題である。本校の児童は、図を利用し、百分率で表された割合を分数で表すことができていると考える。しかし、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することができていないところもあるので、算数の授業において具体的な場面を用いて進めていく必要がある。

##### 【課題】

示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できる。

③ 次に、くるみさんは、カップケーキ7個の値段を7個にそろえて考えることにしました。  
 【くるみさんの考え】  
 Aセットのカップケーキ7個分の値段 1050 ÷ 2 = 525 525円  
 Bセットのカップケーキ7個分の値段 1470 ÷ 3 = 490 490円  
 カップケーキ7個分の値段は、Bセットのほうが安くなります。

【ゆうとさんの説明】  
 1列のカップケーキが7個ずつ2列あります。2列の値段が1050円なので、1050を2等分すれば1列に並んでいるカップケーキ7個分の値段を求めることができます。

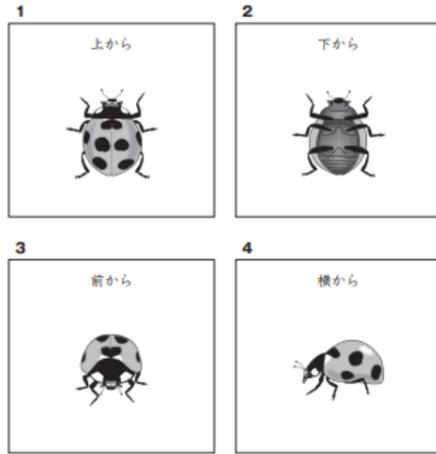
	正答率	無解答率
本校	59.4	9.4
全国	76.0	5.2

**(考察)**  
 この問題はカップケーキ7個分の値段を、1470 ÷ 3で求めることができるわけを書く問題である。正答率が、全国より大きく下回っており、また無回答率も高い。示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することが必要である。校内研究で取り組んでいる考える力の向上をめざし、子どもたちが書きたいと思う授業づくりを目指していきたい。

【成果】

昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる。

(3) みどりさんは、ナナホシテントウがこん虫であることを説明しようとしています。こん虫であることを体のつくりから説明するために、どのような写真が必要ですか。下の 1 から 4 までの中から最も適切なものを1つ選んで、その番号を書きましょう。



	正答率	無解答率
本校	79.4	0.0
全国	73.1	0.3

(考察)

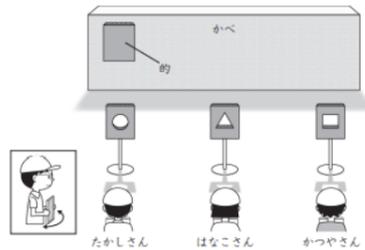
ナナホシテントウが昆虫であることを示すには、頭、胸、腹の3つに分かれ、足が6本あることを確認しなければならない。そのためには、3つの部分が分かれているということを確認できる、解答2の下から見ないといけないという知識を持っているということが必要である。

正答率が高かったことと無回答率が0%だったこともあり、昆虫の体のつくりはよく理解していると考えられる。

【課題】

日光は直進することを理解しているかどうかをみる。

3 たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的あてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、四角形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはどれですか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

	正答率	無解答率
本校	15.6	0.6
全国	27.8	0.6

(考察)

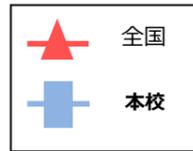
この問題は、光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ必要がある。大阪府・全国よりも正答率が下回った。

まず、問題の意味を理解することに時間を要したのではないかと考える。問題の意味を説明してもらえば、なるほどとなるような問題を自分自身の力で読み解いていくという力をつけていくことが課題である。

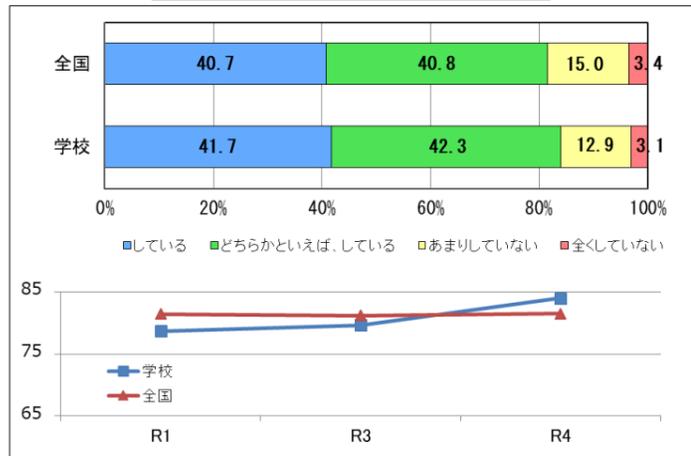
# 質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

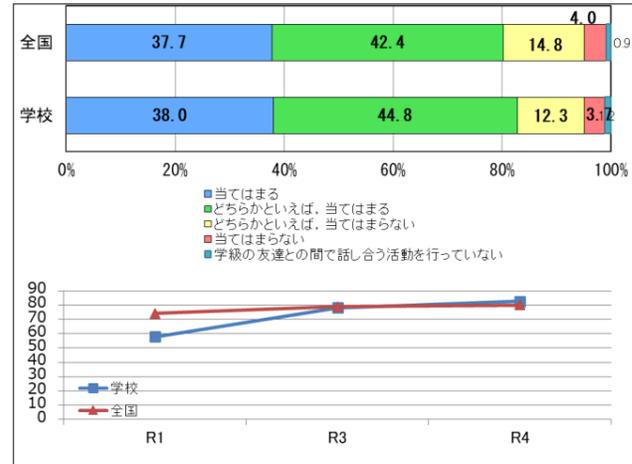
## 【成果のあった項目】



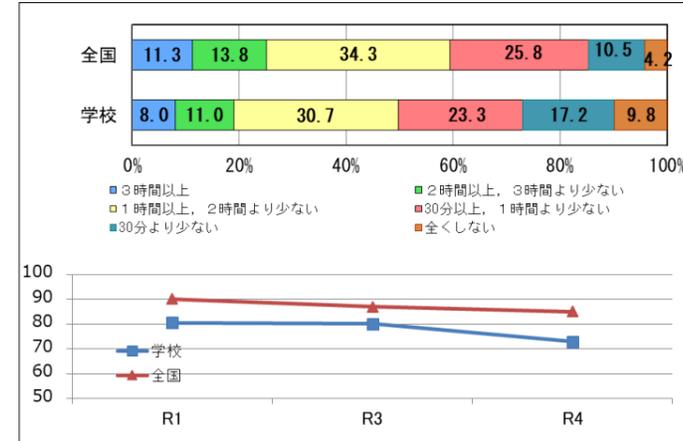
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか

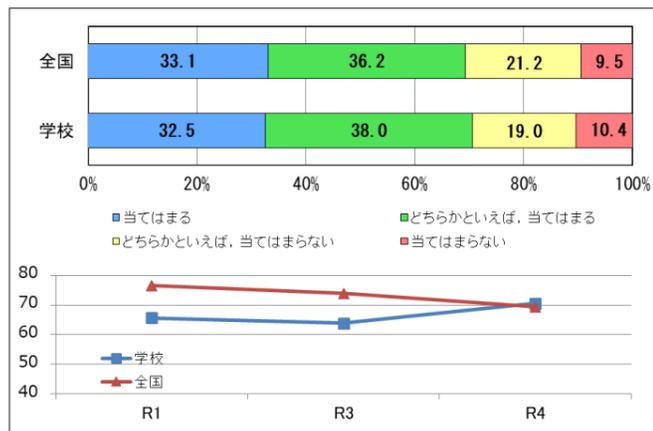


授業時間以外、普段(月～金)1日の勉強時間



(考察)  
 「難しいことでも、挑戦している」という項目では、7割の児童が肯定的な回答をしているが、3割の児童は、否定的な回答である。否定的な回答の割合が全国より高いので、大人からの声掛けや環境づくりが必要であると考えられる。  
 「学校の時間以外の読書や勉強の時間」について、全くしていない児童の割合が高いことが気になる。家に帰ってからの学習習慣や読書週間を身に着けていくには、家庭との協力が必要であると考えられる。『ジャンピングウィーク』を広め、家庭と連携して取り組んでいきたい課題である。

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



(考察)  
 「朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時間に寝ている」という項目で肯定的な回答の割合が高いことから基本的な生活習慣が身につけており、家庭の協力を得ることができている。  
 また、授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合が高いことから、受け身ではなく、自分から学習する意欲が伸びてきていると考えられる。今後も自ら学ぼうとする児童が増えていくように声掛けや授業を工夫していきたい。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組みしていくこと

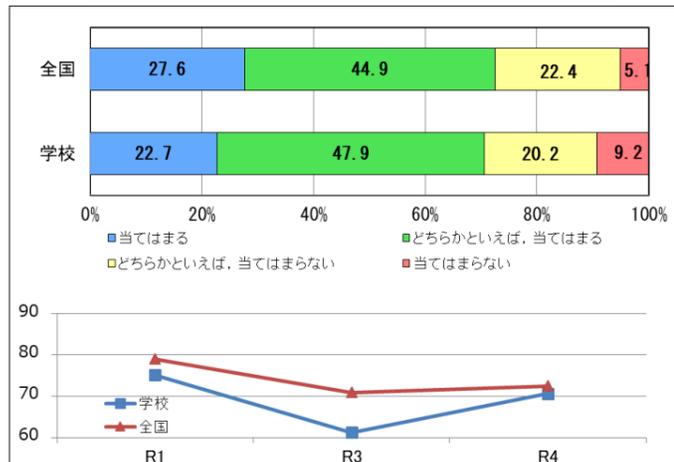
### (1) 授業改善について

国語の調査では、「話す」「聞く」取り組みを続けてきた成果が表れていた。「子どもたち同士で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広めたりしている」項目について肯定的な回答の割合が高かった。しかし、調査の問題の中で、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる」問題では、正答率が低く無回答率も高かった。日頃からクラスの中でお互いの文章を読み、良いところなどを授業の中で共有していく活動が必要である。

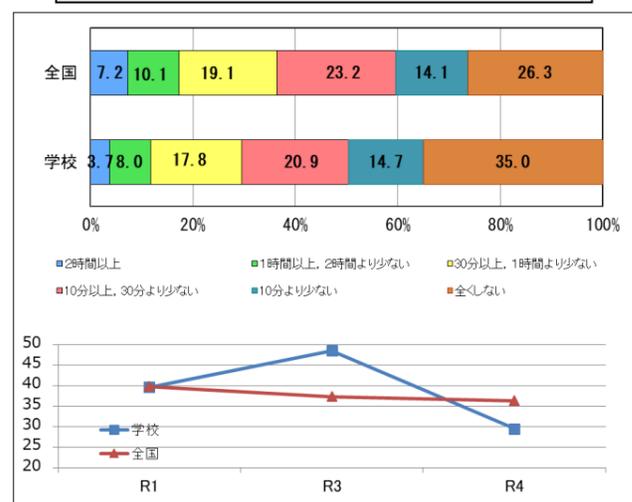
算数の調査では、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できる」問題で全国より正答率が低かった。書くことについて苦手意識を持っている児童が多いと考えられる。今年度、校内研究で取り組んでいる考える力の向上を目指すこと、子どもたちが「読みたい」「書きたい」「やってみよう」と思う授業づくりについて、引き続き目指していく必要がある。

## 【課題が残った項目】

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしているか



### (2) 家庭学習について

調査では、「普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の項目では、一日当たりの時間が2時間以上の児童の割合が4割近くいて、全国より高い割合である。また、授業時間以外、普段の一日の勉強時間が短いまたは、全くしない児童もいることから、家庭でのスマホを使う際には、使い方やルールについて子どもたちと話し合っただき、学校ではメディアリテラシーについて系統立てて学習していく必要がある。また、「自学自習」を積極的に進め、「ナビマ」などのAIドリルを活用していく。